

**創業 100 周年を迎える聚楽(じゅらく)**
**“<sup>すだちょう</sup>須田町食堂”創業ヒストリー第 2 弾を発刊**
**外食産業のチェーン展開化と“聚楽”の誕生**
**じゅらく  
聚楽グループ**

『伝統を守り挑戦を続ける』をビジョンに、ホテルやレストラン事業を展開する株式会社 聚楽（本社：東京都千代田区、取締役社長：加藤 治、以下「当社」）は、2024年3月10日に創業100周年を迎えます。創業者である加藤清二郎は、東京で簡易洋食「須田町食堂」を開業し、綿密な計画と独自の商法のもと1943（昭和18）には最大89店舗まで広がっていきます。また、“聚楽”の社名は創業10周年の際に従業員700名による社内公募で決まりました。創業から戦前までの軌跡を当社が発刊している情報誌「ことのは」で第2弾を作成しましたので、聚楽グループの各ホテルやレストランで無料配布します。第1弾はWEBでも閲覧可能です。《<https://www.hotel-juraku.co.jp/info/kotonoha/>:「ことのは」Vol.20》

取材及び冊子郵送ご希望の方は(株)聚楽（じゅらく）  
info@hotel-juraku.co.jp までお問い合わせください。


**■準備と決意の“ノート”**

創業家の蔵の整理中に偶然発見され、須田町食堂開業前に書いたと思われる「ノート」には、創業者加藤の手記が書きつづられていました。その中に「使用人の待遇法に就て」と書かれた部分があります。お客様に喜んでもらうのはもちろんですが、加藤は従業員への心遣いを大切にしていました。その一つに「蓄音機」の話があります。手記には「蓄音機を買い求め、昼間は時として店に之を用い客の興を誘ひ、夜仕事を終へてから、店員をして自由に使わしめ、慰めしむる。(中略) 仕事と遊びと一緒にせざる様、働く時には一心不乱に働き、遊ぶ時には何事も忘れてよく遊び、休む時にはよく休むという様な良

き習慣を店員に付けしむる様、指導教育せねばならん。」とあります。開業前にも関わらず、共に働く仲間を思いやり、令和の現代においても共感させられる内容となっていました。

### ■実家からの借金返済要求に返信した“手紙”

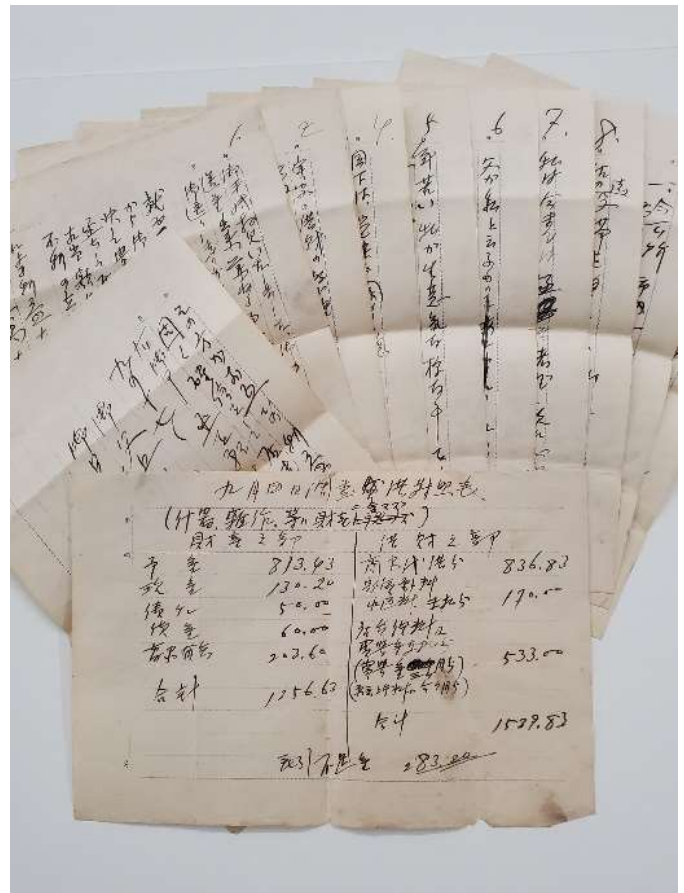
1924（大正13）年3月10日に開業した須田町食堂の営業時間は、11時～23時まで。売上も上々で連日の盛況ぶりは東京中に広まってきました。しかしそれと同時に問題となっていたのは借金の返済と、繁盛がゆえの什器・備品の補充、設備の改修費でした。そんな中、実家から借金返済要求の手紙が届きます。この時、本人が返信した手紙が残っています。

- 全額は返せないから三百円だけ送金する
- 本郷パーと競争していて利益は案外少ない
- 家業が苦しいのも承知しているが、こちらも苦しい（大正13年9月現在283円不足）
- 店を増やす計画中に送金を迫られると全てが遅れる
- 来年末には千五百円あるいは二千円を誓って送る

日付は一号店開店から半年後の9月17日でした。

自身も苦しいけれど、実家のことも思いやりながら二号店を開業させるのです。

写真：返信は9枚にも及んで書かれており、開業後の資金難を示す貸借表も記されていた



### ■須田町食堂チェーン展開の“実行”

一号店開店からわずか8か月後の1924（大正13）年11月20日、「須田町食堂京橋営業所」を開店。運営と仕入れは信頼のおけるスタッフに任せ、自身は創業前に考えていた「チェーン展開」を実行に移します。「流行の最初というものは仕事がしやすいものだ。この潮に乗ってグングン進んでいけば発展は瞬く間だ。この間に機先を制して発展しておき、流れが緩くなった時にぐっと引き締めて内容の充実を計るべきだ。」この方針のもと1924（大正13）年から1930（昭和5）年までの間に、銀座・上野・浅草・水天宮・神保町等、合計25店舗を展開し、どの店舗も大盛況となりました。

ここで冒頭の「ノート」に目を戻してみると「向こう5年間を以って第一期となし、この間確実な利息以外、断じて他の営業に手を染めぬこと」とあります。この覚悟の通り、創業から6年間は須田町食堂だけを展開し、初めから計算されつくされた事業拡大だったことが分かります。

ここで冒頭の「ノート」に目を戻してみると「向こう5年間を以って第一期となし、この間確実な利息以外、断じて他の営業に手を染めぬこと」とあります。この覚悟の通り、創業から6年間は須田町食堂だけを展開し、初めから計算されつくされた事業拡大だったことが分かります。

写真：1927（昭和2）年「須田町食堂営業本部」を設け、一括で仕入れと仕込みを行い、原材料費の削減を行いながら利益を上げていった。









## ■じゅらく情報誌「ことのは」設置場所

### 【宮城県】

■御酒印船 仙台店

### 【福島県】

■飯坂ホテルジュラク

### 【新潟県】

■ジュラクスティ新潟

■弥彦山ロープウェイ

■亜麺坊 新潟店

■弥彦桜井郷温泉 さくらの湯

### 【東京都】

■お茶の水ホテルジュラク

■レストランじゅらく上野駅前店

■須田町食堂 秋葉原 UDX 店

■酒亭じゅらく上野店・お茶の水店

■ブッチャーズ八百八 御茶ノ水店

■ワインバル Viña Vin Vino

■スペインバル El Chateo del Puente

■浅草聚楽

■御酒印船 新宿店

■串揚げじゅらく 上野店・新橋店・アメ横店

■カフェ淡路坂珈琲 お茶の水店

■明神そば きやり 神田明神前店

### 【群馬県】

■みなかみホテルジュラク

■万座ホテルジュラク

### 【静岡県】

■伊東ホテルジュラク

### 【兵庫県】

■神戸ホテルジュラク

## ■会社概要

### 株式会社聚楽

【創業】1924（大正13）年3月10日

【資本金】1億円

【代表】取締役社長 加藤 治

【住所】東京都千代田区神田駿河台3丁目4番地龍名館本店ビル9階南

【従業員】正社員570名／パートタイマー450名（2023年4月時点）

【事業内容】都市ホテル・リゾートホテル・各種レストラン

【URL】<https://juraku.com/>

<本件に関する報道関係からのお問い合わせ先>

株式会社 聚楽

広報：info@hotel-juraku.co.jp